

守山市立守山幼稚園

日時：2012年10月30日（火）13:30-17:00

2012年11月7日（水）9:00-16:00

場所：守山市勝部1丁目13番1号

JR守山駅からすぐの街中にある幼稚園。しかし、園から歩いて5分ほどで、勝部神社があります。境内の裏には大きな森が広がり、大木もあります。普段は薄暗くて怖いというイメージを持たれがちな神社の森。しかし、そこにはたくさんの自然からのメッセージが隠れています。今回は、その森で子どもたちが修行をしていく展開でプログラムを作成しました。

（対象：年長児 30名）

1日目は講座、下見とプログラムづくり、2日目は作成したプログラムの実践とふりかえりです。講座の一部を紹介します。 講師 島川武治（しまっち）さん

幼児自然体験型環境学習を始める前に・・・

- ・地球温暖化をどう伝えますか？「地球があたたかくなっている」だけでない、人類の活動に伴って温室効果ガスが増えて、世界各地での異常気象や海面上昇などの原因となっている。
- ・子どもが環境に向けた行動をする助走をつけてあげるのが保育者の役割である。
- ・保育者自らが自然を感じることを意識した保育プログラムをつくっていきましょう。
- ・滋賀の幼児自然体験の元となったスウェーデンでは、汚れた湖を浄化するために、幼児期からの環境教育が重要視され、本当に飲める湖となった。琵琶湖を持つ滋賀も同じことが言える。



木の温かさ
冷たさを感じます。



これまでの
園のキャラクターを使えないか、相談中

森のアイテムを集めて 修行でござる

タラヨウの葉っぱに書かれた指令を元に、神社の森へ集まった子どもたち。普段から忍者遊びをしている子どもたちは、突然現れたクモ男をやっつけるために、手裏剣のツバキの実を見つけたり、黒い布に隠れながら森の土に接したりと、修行をしながら、森の自然をじっくりと見つめ、地面に触れていました。



忍者の頭領
と一緒に修行だ！



木に登って
ニンニン
ン！修行
だ！



クモ男に見
つからない
ように隠れ
るぞ！



ツバキの手
裏剣で、ク
モ男をやっ
つける！

みんなちがって いい はっぱ

再び、葉っぱに書かれた指令「一番長い葉っぱを集めてこい」。森に落ちている葉っぱをじっくりと眺めます。長い、大きい、小さい葉っぱの比べっこをした後は、みんなでシートの上に葉っぱを置いて、「せーの！」葉っぱがお空へ舞い上がります。



葉っぱを集めるよ。こっちにも、あっちにもいろんな葉っぱ。



グループで誰の葉っぱが長いかな？私のが長い！



みんなの中で一番長いのはどれかな？



いくよ！みんな、せーの！お空へ飛んでいけっ！

忍法！木を囲むの術！

3つの修行にチャレンジします。「木を集めるの術」「木を数えるの術」と段々と修行が難しくなって、最後は「木を囲むの術」。どの木とどの木を囲めば、たくさん囲めるか、相談したり、自己主張したり、森に触れながら、コミュニケーションが進みます。



みんな！いいかな！今から3つの修行をするぞ！「がんばれるもん！」



こっちの木がいいよ。えーあっちの方がいいよ。それよりもっといい方法があるんだけどなあ



クラスのみんなの手をつないだら・・・すごい。大きな木も小さな木も、たくさん木を囲めたよ！

プログラムを終えてのふりかえりから

- ・教師がなりきることで、子どもたちの心をつかんでいた。子ども達が退屈することなく入り込んでいた。
- ・普段話さない子ども同士が話していた。
- ・プログラム最後で、土の臭いをかいで、「いいにおい」と話す子どもがいた。良い瞬間であった。普段なら「くさい」と話すだろう。
- ・木の感触を楽しむ言葉。「ザラザラ、サラサラ」、「この森には何本木があるの？」「木の声が聞こえる」などのつぶやきがよく聞かれた。